

次代を つくる



京都大学国際融合
創造センター教授
澤田芳郎さん

産学連携には大学と企業がリソース(資源)を出し合っ
て行う(共同研究)、大学が特許を企業に実施許諾する(技術移転)、発明者の教員が民間資本を得て起業し、技術の活用を自ら促進する(大学発ベンチャー)などがあります。そのさまざまな局面で世話役になるのが、我々産学連携コーディネーターです。

産学連携コーディネーターの基本的な業務は、技術相談対応です。まず企業の話をしつくりお聞きし、その沿革や業界事情を踏まえてデータベース検索やクチコミで適任の教員を探し、面談を設定して同席し

産学連携コーディネーター

の諸要件も折り込んで研究契約書を作成。あるいは教員の兼業によるコンサルティングに持ち込みます。コーディネーターには技術を機能のレベルで把握し

系出身なら必ず出来るというわけでもありません。世界規模の競争の中で産業界は大学の知的力量を必要とするようになり、国立大学も国だけに財政を依存できなくなりました。その中で産学連携は確かに注目されますが、過剰な期待は禁物です。コーディネーターは国立大学法人化等の法制度改革も念頭に置きながら産学双方に実りのある産学連携を目指しています。